

経営者の皆様に、次への視野(スコープ)を。
毎月、かんぽ生命がお届けします。

かんぽスコープ

Vol.106



中小企業に成長資金を。 受注情報の記録を担保に 運転資金を調達できる。



「成長は、後継者難も解決します」と語る小倉氏。

内閣府の発表によると、今年(2018年)6月で景気拡大が67カ月連続となりました。実は、こうした好況期こそ気をつけたいのが資金ショート。事業では、一般的に入金よりも支払いが先に来るため、受注や販売が好調なときほど運転資金が不足しがちになるためです。ところが銀行融資は決算書重視で、資金需要に機動的に対応してくれるとは限りません。そこで『かんぽスコープ』は、中小企業の資金調達に革新をもたらすと期待されている「電子記録債権」に着目。銀行系以外で唯一、総理大臣・法務大臣から指定[※]を受けた電子債権記録機関を子会社として運営するTranzax株式会社の子会社の小倉隆志社長にお話を伺いました。

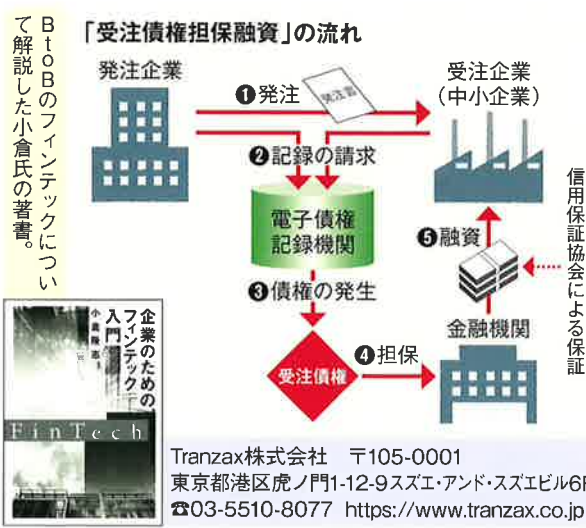
金融検査マニュアルが融資を萎縮させてきた。
「なぜ決算書ありきの融資になるか」といふと、審査が、金融検査マニュアルに縛られているからです」と小倉氏は実情を明かす。
金融検査マニュアルは、バブル経済の崩壊でふくらんだ不良債権を処理するために、金融庁が1999年に導入。財務状況や担保・保証の有無により貸出先を分類し、回収リスクに応じて貸倒引当金を積むように求める。厳しい検査で銀行の健全性が回復した一方、リスクを恐れて中小企業向けの融資残高は減少し、ピークの95年12月から約30%減の状態で現在も横ばいを続けている。

「決算書はあくまで過去の数字。過去を基準にしているのは、企業が成長するための資金を供給できません。これは、日本の労働生産性が上がらない一因にもなっています」
もちろん金融庁も現状を重くとらえ、18年度末には同マニュアルを廃止する予定だ。

資金調達の常識が変わる「受注債権担保融資」。
代わって金融庁が融資判断の新しい基軸とするのが「事業性評価」。決算書分析や担保・保証に頼らず、事業内容や成長可能性など、企業の将来の姿を適切に評価して融資を行うように求めている。

「しかし、マニュアル審査を20年続けてきた結果、事業性を評価できる「目利き」の行員が少なくなっているのが課題です。電子記録債権が期待を集めているのは、事業性評価を行ったのと類似の効果が簡単に得られるからでもあります」
電子記録債権とは、08年に施行された電子記録債権法に基づく新しい金銭債権のこと。債権の発生、譲渡、支払い、担保設定、保証などの情報を、電子債権記録機関のデータベースに書き込むことで効力が生じる。債権の流通性を高め、投資家(譲受人や担保設定者)を保護するために、手形と同様、善意取得^{※2}や人的抗弁の切断^{※3}が認められ、すでに手形の代替や、ファクタリング(売掛債権譲渡)の手段として普及し始めている。

「これらはメガバンク系の電子債権記録機関が力を入れていて、主



※1 国の法的権限を代わって行使できる許認可。 ※2 譲渡人が無権利者であっても、そのことを知らずに譲受した場合は、債権取得の効力が生じること。
※3 債務者は、原則、債権発生事情などを理由に支払いを拒めないこと。 ※4 同社はこのビジネスモデルで特許を取得し、「POファイナンス®」の名で商標登録している。

権なら権利の発生が明確ですから、
いずれの心配もありません」

受注債権には信用保証協会の保証
が4〜5割付けられ、ことも融資を容
易にしている。そして納品・検収が
済めば売掛債権に変わり、担保価値
は10割になるため、残りの5〜6割
の追加融資を受けることも可能だ。

成長資金の供給に、 地銀、信金が乗り出す。

「受注債権担保融資」が特に効果を
発揮するのは、受注から納品までの
期間が長く、請負金額が巨額となる
事業。たとえば建設業やシステム開
発業では、仕入れや外注などで支払
う資金が手当てできず、受注を諦め
てしまうケースがあった。

「それが、受注段階で運転資金を得
られるわけですから、事業を拡大し
ても仕事がガス欠(資金不足)で止ま
ることがなくなります。また、研究
開発や設備導入など、先行投資とな
る成長資金の需要に応えることもで
きます。一方、銀行にとっては、電子
記録債権という明確な根拠をもって
成長資金を供給できるので、融資先
の事業性評価を行ったのと同様の結
果になるのです」

「受注債権担保融資」のサービス開
始は今年の7月。現在(9月)時点で
城南信用金庫、西武信用金庫などが
取り扱いを始め、年内に全国の地
銀、信用金庫など20行程度に拡大す
る予定だという。

運転資金ショート回避に、 “備えあれば憂いなし”です。

運転資金は、企業にとって「水」のようなもの。
水がなければ生物は生きていけないように、
運転資金が枯渇すれば、企業は存亡の危機に立たされます。
資金ショートは、業績が好調なときでも生じるので、
運転資金を確実に用意できる方法を考えましょう。



ぜひ
ご覧ください

マンガで楽しく、
分かりやすく
ご案内しています。

かんぼビジネスライブラリ
「運転資金に活用」の巻

病気のサインを見逃すな!

下肢のむくみや痛み



文=石原結實
イナハラクリニック院長、長崎大学医学部卒業、同大学院博士課程修了。医学博士。著書は『病気のサインを見逃すな! 自分でできる健康診断』など300冊超。

慢性的なむくみは重篤な病気の可能性も

体の中で最もむくみが生じる部位は下肢です。心臓から遠いため血液の流れが滞りやすいことや、重力の関係で水分がたまりやすいことがその理由です。同じ姿勢を続けたとき、疲労が蓄積したときなどにむくみは起こりますが、ひと晩寝たら治まるような一過性のものならばさほど心配はいりません。

しかし、むくみが慢性的に続くようならば、何らかの病気を疑ったほうが良いでしょう。両下肢に表れるならば心臓病です。夕方に出現し、翌朝に消失するのを繰り返す場合がほとんどですが、病気が進行するとむくみは一日中続き、全身に及びます。腎臓病の一種であるネフローゼ症候群や、慢性的な肝臓病(肝硬変)や肝がんでも両下肢にむくみが生じます。

片方の下肢がむくむ場合は、大腿静脈に血栓ができていたり、または前立腺がんの転移時などに生じる鼠径リンパ節の腫れによって静脈が圧迫されている可能性もあります。

心筋梗塞や脳梗塞でも下肢に痛みが

下肢に痛みが続く場合もさまざまな病気が考えられます。代表的なのは、足の親指(母指関節)に痛みが表れる痛風でしょう。夜間に発作が起きやすく、発赤、腫れ、熱感も伴います。太ももや膝、足の指

などに痛みが表れる場合は変形性関節炎の場合が少なくありません。リウマチ性関節炎の可能性もありますが、筋肉が衰えた中高年の方は変形性関節炎が多いようです。

また、歩行時に片方の太ももやふくらはぎが痛み、休めば治まるといった症状が出たら、血管障害(閉塞性動脈硬化症)の可能性もあります。心筋梗塞や脳梗塞の前兆のこともあるので、不安を感じたらすぐに病院で検査をしましょう。

下肢に表れるサインと病気

	サイン	疑われる病気など
むくみ	両下肢のむくみ(夕方に出現し、翌朝消失)	心臓病
	両下肢のむくみ	ネフローゼ症候群、慢性的な肝臓病(肝硬変)、肝がん
	片方の下肢のむくみ	大腿静脈の血栓、鼠径リンパ節の腫れ
痛み	足の親指の痛み	痛風
	太もも、膝、足の指の痛み	変形性関節炎、リウマチ性関節炎
	片方の太ももやふくらはぎの痛み(歩行時)	血管障害(閉塞性動脈硬化症)、心筋梗塞、脳梗塞

(注)
記事中に記載の法令や制度等は取材当時のもので、将来変更されることがあります。詳細につきましては、各専門家にご相談いただきますようお願いいたします。

株式会社 かんぼ生命保険

かんぼ生命Webサイト

<http://www.jp-life.japanpost.jp/>

【取扱店名・担当者・電話番号】